

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3					
17UHBS1206	基礎物理化学	1	医薬品の体内動態や安定性、体内で起こる生理的あるいは病的現象を理解する際には、物理化学的な視点が必要である。本講では、薬学で必要となる物理化学に関する基礎的な内容を学習することを目標とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 物質間の相互作用に関する基礎的知識を身につける。 2) 物質の変化を速度論的に取り扱うために必要な基礎的知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。 3) 溶液の性質や物理平衡に関する基礎的知識を身につける。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎	○						
17UHBS2207	応用物理化学	2	基礎物理化学の学習内容をさらに深め、薬学や生命科学を研究する上で必要な物理化学的知識と技能を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な事柄の理論的背景が説明できる。 2) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な具体例について、数値の計算ができる。 3) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○					
17UHBS1208	基礎分析化学	1	医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 溶液中の酸・塩基平衡の概念について説明できる。 2) pHおよび解離定数について説明できる。 3) 溶液中の化学平衡（錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡）について説明できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎			○		○	○						
17UHBS2209	応用分析化学	2	医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、化学的定量法と分離分析法の基本的事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 医薬品の化学的定量法（容量分析法、重量分析法）について説明できる。 2) 容量分析法のうち、中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定について説明できる。 3) 分離分析法（クロマトグラフィー、電気泳動法）について説明できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎			○		○	○						
17UHBS2210	機器分析学	2	医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、機器分析法の原理と操作法の基本的事項を修得することを目的とする。	1) 分光分析法（紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、赤外吸収スペクトル測定法、原子吸光度法、発光分光分析法）の原理および応用例を説明できる。 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法、質量分析法、X線分析法、熱分析法の原理および応用例を説明できる。 3) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。 4) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できるとともに、臨床分析における精度管理および標準物質について説明できる。		◎			○		○	○						
17UHBS1211	基礎有機化学	1	薬学で取り扱う医薬品や生物活性物質の大部分は有機化合物である。有機化学の知識は、有機化合物の性質や反応性を理解するために必要である。本科目では、基礎的な有機化学の知識を修得することを目的としている。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 酸と塩基、および官能基がおよぼす影響について説明できる。 2) 代表的な化合物の慣用名を示すことができ、IUPAC規則に基づいて命名することができる。 3) アルカンやシクロアルカンの配座、および構造異性体と立体異性体について説明できる。 4) 光学活性・キラリティー・エナンチオマー・ジアステロマー・ラセミ体・メソ体・絶対配置の表示法等について説明できる。 5) 有機ハロゲン化合物の求核置換反応や脱離反応について説明できる。 6) 脱離反応によるアルキンの生成、およびアルケンやアルキンの性質について説明できる。 7) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3							
17UHBS1218	基礎生化学	1	薬の科学者に必要な、生命の化学的基盤に関する基礎的な知識を習得するため、細胞を構成する物質の構造、性質および機能に関する基本的な知識を学ぶ。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 細胞を構成するタンパク質、糖質、脂質等の構造、性質および機能に関する基本的な知識を習得し、説明できるようになる。また、これらの知識を活用した論理的思考力を身につける。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		
17UHBS2219	応用生化学Ⅰ	2	薬の科学者に必要な、生化学の知識を拡大して高めることを目的に、基礎生化学および分子生物学で修得した内容を拡張した応用的知識を身につける。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 細胞を構成するタンパク質、糖質、脂質等の機能に関する応用的知識を習得し、説明できるようになる。また、これらの知識を活用した論理的思考力を身につける。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		
17UHBS2220	応用生化学Ⅱ	2	生命活動が生体エネルギーにより支えられていることを理解するために、食物成分からのエネルギー生産および糖質、脂質、タンパク質および核酸の代謝に関する基本的知識を習得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、全人的教職実践力と関連づけて理解する。	1) 生体内で行われている異化と同化からなる代謝経路と、その制御機構に関する知識を習得し、説明できる。また、これらの知識を活用した論理的思考力を身につけている。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		
17UHBS1221	分子生物学	1	ゲノムと生命情報に関する分子レベルでの基礎的知識を習得するため、生命情報の保存と利用を実現する分子レベルの機構について学ぶ。また、生命科学に必要な基礎技術の原理についても学ぶ。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) ゲノムと生命情報に関する分子レベルでの基礎的知識を習得し、説明できるようになる。また、これらの知識を活用した論理的思考力を身につける。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		
17UHBS2222	微生物学	2	微生物学についてその歴史から環境での役割、各種の特徴、分類について系統的に整理し、微生物内部で起きている代謝、遺伝機構について体系的に理解することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 微生物学について歴史・環境での役割・各種の特徴、分類について理解する。 2) 微生物内部で起きている代謝・遺伝機構を理解する。 3) 微生物の多様性を利用した微生物学研究の実際について基本的事項を理解する。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		○
17UHBS3223	遺伝学	3	生物学的に受け継がれる形質は親から子へ伝達される遺伝子により決められる。その遺伝子を理解するために核酸の構造、機能および代謝に関する基礎知識を得るとともに、疾患の遺伝子解析および遺伝子治療の基礎知識を修得する。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 獲得した知識をもとに論理的思考力ができるようにする。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
17UHBS3224	疾病遺伝学	3	現在の日本における一般的な疾病は遺伝が少なからず関与している。その疾病と遺伝子の関連を理解し、疾病の発症と遺伝子の関与を概観し、遺伝子が関与した治療も理解する。	この講義を通じて疾病における社会と自然に関する知識を深めるとともに、倫理観も考慮にいれた論理的能力を養うこと。		◎						○	○		
17UHBS3225	病原体論	3	病原微生物に関する詳しい知識を会得し、分類・感染経路・診断・治療・予防方法について体系的に理解することを目的とする。	1) 病原微生物に関する知識を総合的・体系的に理解する。 2) 様々な病原微生物に関する性状・疾患・予防法などの詳細を分担調査して、質疑応答を含めた発表ができる。		◎				○		○	○		
17UHBS2226	免疫学概論	2	生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。 2) 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。		◎							○		
17UHBS1227	基礎解剖生理学	1	ヒトの身体の基本構造を把握し、その正常な機能を理解することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) ヒトの身体を構成する構成要素(臓器)の名称や構造とその機能とを結びつけて理解できる。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎							○		
17UHBS2228	機能生理学	2	ヒトの身体の機能は、どのように統合され正常に維持されているのか、その仕組みを理解する。教職課程履修学生は、中高理科の生物分野を教授する専門的学力を形成する一助となるため、基礎解剖生理学と合わせて受講することが望ましい。	ヒトのからだの機能を一定に保つ仕組み(恒常性維持、ホメオスタシス)について理解し、具体例を挙げて説明できる。		◎							○		
17UHBS2229	基礎薬理学	2	医薬品の薬理作用、薬効発現機序、適応症および副作用に関する幅広い知識を習得させることを目的とする。	常用医薬品の薬理作用、薬効発現機序、適応症および副作用を説明できることを最終目標とする。	○	◎	○							○	
17UHBS2230	応用薬理学	2	医薬品の作用機序や生体内動態などに関する基礎的知識を、臨床や研究に応用する力を養うことを目的とする。	医薬品の作用機序や生体内動態などに関する基礎的知識を基盤に、末梢神経作用薬を理解し、薬物治療や医薬品研究に応用できることを最終目標とする。	○	◎	○							○	
17UHBS3231	病態疾病学	3	代表的な疾病について、その症状、症候、病因、病態、治療、予後などについて学ぶことを目的とする。	1) ヒトにはどのような疾病があり、どのような原因でどの器管系におこるのか説明できる。 2) 頻度や重要度の高い疾病について、その症状、症候、病態、治療、予後などについて概説できる。		◎								○	
17UHBS2232	薬物動態学Ⅰ	2	吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を修得する。	○	◎		○			◎		○		
17UHBS3233	薬物動態学Ⅱ	3	薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を修得する。	○	◎		◎			◎		○		
17UHBS3234	基礎統計学	3	医学・薬学研究において、動物実験データや臨床試験を適切に解析するために、統計的な考え方やデータの特徴に応じた解析方法について実際的事例を通して理解する。	実験から得られたデータを正確に解釈し、評価するのに必要な生物統計学の基礎的な知識と技能を修得する。		◎			◎	○	◎		○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
17UHBS3235	応用統計学	3	創薬から薬物治療に至る医薬品開発の各過程において、より有効で安全な治療や予防実現に向けたアプローチの考案・実行に必要な臨床試験の研究手法と統計解析手法を理解する。	医薬品開発において、生物統計学を活用するための基礎的な知識と技能を修得する。		◎		◎	○	◎	○	○			
17UHBS3236	物理薬剤学・製剤学Ⅰ	3	製剤学の基礎である物理薬剤学の基本的事項について修得することを目的とする。問題演習を通じて理解を深める。	1) 物理薬剤学の基本的現象について例を挙げて説明できる。 2) 物理薬剤学の代表的な式について意義と利用法を説明できる。		◎					○				
17UHBS3237	物理薬剤学・製剤学Ⅱ	3	日本薬局方の意義と内容理解、各種剤形の基本的性質や特徴、基本的なDDS技術とその製剤を説明できることを目的とする。	医薬品に関する定義や定量法や試験法などが記載された医薬品に関する公定書である日本薬局方について、その役割や性質を学ぶことによって、その意義を理解する。更に、日本薬局方に記載されている各種剤形の基本的性質や特徴、製造方法および添加物等を学び、基本的なDDS製剤についても学ぶ。		◎					○				
17UHBS3238	栄養と予防薬学	3	食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 栄養素の種類と役割、その過不足によって生じる健康障害に関する知識を身に付けている。 2) 食品の変質およびそれを防ぐための知識を身に付けている。 3) 食品に含まれる微生物、自然毒、化学物質などの危険因子についての知識を身に付けている。		◎					○	○			
17UHBS3239	環境と予防薬学	3	我々の身の回りの生活環境中には、健康に影響を与える様々な危険因子が存在する。現代社会における疾病の要因や、疾病の発生状況を把握するための保健統計や疫学に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するための保健統計と疫学に関する基本的知識を身に付けている。 2) 病原微生物、大気、水など、我々の生活環境に存在する危険因子とそれらの生体影響についての基本的知識を身に付けている。		◎					○	○			
17UHBS3240	薬物治療学	3	疾患の病態、治療目標、治療薬の作用機序を踏まえ、主要な疾患について、臨床で行われている薬物治療を理解することを目的とする。	主要な疾患について、病態、治療薬の作用機序およびそれぞれの治療薬の特徴に基づく使用について理解する。		◎					○	○			
17UHBS2241	皮膚科学	2	皮膚は体内の最大の臓器の1つで、人体の表面を覆う以外にも種々の働きをしている。皮膚症状から全身に関わる病気が見つかることもある。そこで正常な皮膚の働きや構造、基本的な皮膚病の病態生理と治療薬について理解することを目的とする。	皮膚についての正しい知識や身近な皮膚病についての基本的知識を身に付ける。		◎					○				
17UHBS2242	化粧品学総論	2	化粧品を正しく理解するために必要な皮膚の機能や生理特性、化粧品の品質特性（安全性、有用性）や関連法規等に関する基礎的知識を習得することを目的とする。	1) 化粧品の有用性、安全性に関する基本的知識を身に付ける。 2) 化粧品に関連する肌トラブルに関する基本的知識を身に付ける。		◎					○				
17UHBS2243	化粧品製造学	2	普段から何気なく使っている化粧品についての理解を深める。	化粧品の成分、製造方法、販売時の表現方法がわかるようになる。		◎					○				
17UHBS3244	実践化粧品学	3	人間、特に女性の「装い」の1つとして大切な化粧品を、実践的な視点から学ぶ科目である。化粧に関わる様々な分野で活躍している講師によるオムニバス形式の講義によって、化粧品の開発から使用方法、その際の注意事項や安全性などを、実践的な立場から学ぶことを目的とする。	化粧品の的確な選択方法、安全で効果的な使用方法など、健康科学に根ざした化粧品に関する基盤的知識を身につけ、応用できることを最終目標とする。		◎					○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3						
17UHBS2245	東洋美容学	2	東洋医学では、美しい肌が内臓や各種組織の機能正常の表現であると考えられる。そのため、体表側の肌ケアだけではなく、体内のケアをも重視する。本科目は東洋医学基礎知識を習得し、東洋医学の独特な考えを理解した上、各種常用の東洋医学美容および健康法を身に付ける。	1) 東洋医学の基礎理論を習得する。 2) 東洋医学特徴の理解ができる。 3) 東洋医学美容および健康維持の基本方法を身につけ、特に漢方薬物美容法が応用できる。 4) 漢方美容関連商品の開発研究の最新動向を知る。		◎			○			○		
17UHBS3246	臨床化粧品学	3	皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のために、美容と医療が果たす役割について学ぶ科目である。メディカルメイクなどの分野で活躍している講師による具体的な講義を通して、美容的ケアを多面的に理解するとともに、実践する力を身につけることを目的とする。	皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の状況を理解するとともに寄り添う気持ちを養い、社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のため、美容と医療が果たす役割について理解することを基本的な目標とする。そして、多様な美容的ケアを修得するとともに、それを実践できることを最終目標とする。		◎						○	○	
17UHBS3247	臨床検査総論	3	医療の高度化につれ、様々な臨床検査法が開発されてきている。それとともに疾病の診断や病状把握、治療効果などに重要な位置を占めてきている。このような臨床検査の持つ意味を正しく理解し、より適切な検査を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	臨床検査のもつ意味とその限界について検討をおこなう。さらに著しく増加した検査法のうち、基本的かつ重要なものを抜粋し、その意味を把握できる。また、検査の精度管理や基準値の意味について理解できる。		◎						○	○	
17UHBS4248	脳神経科学	4	脳は膨大な数の神経細胞からなる身体の中で最も複雑な臓器である。脳の構造的・機能的異常が脳神経疾患と関連していると想定される。本講では、まず、脳の多様な構造と機能、神経シグナル伝達、神経回路の制御など基礎的知識を理解し、ついで、代表的な脳神経疾患について症状、病因、病態生理、発症メカニズムおよび治療薬について学習することを目的とする。	脳の神経系の基本的機能を習得し、その異常で起こる主な病気の症状、病因、病態生理を理解したうえで、適切な治療薬の選択について説明できることを最終目標とする。		◎						○		
17UHBS4249	腫瘍生物学	4	現在、わが国の最多死亡原因であるがんについて、その成り立ちから遠隔臓器への転移まで、さらには各種がんの治療法までを学習することを目的とする。	自然科学分野における研究者を志す学生に対して、がんの成り立ちから遠隔臓器への転移まで、さらには各種がんの治療法までの幅広い知識を習得し、主要な概念について説明できることを最終目標とする。		◎						○		
17UHBS3250	医薬品化学	3	創薬化学を理解するために、様々な医薬品の持つ薬理作用を医薬品の化学構造と関連付け、有機化学的知識を活用して医薬品を理解する能力の習得を目的とする。	これまでに学んだ有機化学の知識をもとに幾つかの代表的な疾患に用いられる薬物の薬理作用を医薬品分子の化学構造に関連付けて概説できることを目的とする。		◎						○		
17UHBS4251	保健食品機能学	4	科学的根拠にもとづいた健康食品の使用法について理解し、健康食品を安全に効果的に使用する考え方を養うことを目的とする。	健康食品の現状と問題点を理解した上で、健康食品に対する科学的根拠にもとづいた適正な判断・使用方法について説明できることを最終目標とする。		◎						○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3						
17UHBS2252	セルフメディケーション	2	一般用医薬品の適正使用に向けての薬局・薬剤師の役割、位置付けを理解していく。また、製造業において研究・開発に携わる場合も、一般用医薬品に関する事項を把握して、将来、役立つことを目標とする。	1) 一般用医薬品に関連する法令の内容を説明できる。 2) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を説明できる。 3) おもな一般用医薬品を列挙し、使用目的を説明できる。		◎	○					○		
17UHBS4253	統合医療概論	4	現代医療との関わりの中で、代替・相補(補完)・伝統そして総体である統合医療(CAM)について、その概念を学ぶことを目的とする。	現在、わが国で施療されている統合医療を構成する主なものの施療思想について理解できる。その施療内容の科学的な妥当性について評価できる。		◎						○	○	
17UHBS3254	薬事関係法規	3	薬の専門家として果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようになるために、薬学や医療保険を取り巻く法令および制度に関する基本的知識を修得することを目的とする。	1) 医薬品等の供給制度や副作用の救済制度等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。 2) 麻薬、向精神薬等の管理薬の取扱い等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。 3) 我が国の医療保険制度の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。		◎	○						○	
17UHBS4255	医薬品情報学	4	医薬品に関する情報の全体像を把握し、医薬品の適正使用に必要な情報を理解することを目的とする。	薬物治療に必要な様々な情報を適切に収集、評価、加工、管理し、これを医療チームや患者に対して過不足なく的確に提供するために必要な基本的知識を習得する。		◎	○						○	
17UHBS2256	物理学実験	2	物理学の基本的事項を理解し、自然現象について物理法則を用いて説明することが出来、さらに、測定器の原理や取り扱い方を学び、実際に活用出来る事を目標とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 測定機器の正しい取り扱いができる。 2) 測定データの分析を行うためのグラフや表を作成し得られた結果を客観的に考察できる。 3) 実験内容を正確に伝える報告書を作成できる。 4) 実験を通して測定原理を理解する。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎				
17UHBS2257	地学実験	2	地学は、生徒が興味・関心をもち、主体的に問題解決を図り、知識・技能とともに科学的地球観・宇宙観が身につくものでなければならない。そのため、学生自身が観察、実験、実習を体験し、資料の整理・考察を行い、専門的な知識と技能等を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 地学の内容を実験を通して理解し、専門的な知識を修得する。 2) 地学実験の正確な操作技能と考察力を修得する。 3) 主体的・協同的に観察・実験・実習を行う態度を修得する。 4) 既習の知識・技能を基に課題を創意工夫して解決する能力を修得する。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎				
17UHBS1258	早期体験学習Ⅰ	1	健康生命薬科学科学生として学習に対するモチベーションを高めるために、公的試験研究機関および企業バイオ関連研究所などの見学を通じて健康生命薬学の基礎実習を体験する。	1) 大学4年間での学習に関する態度を身につける。 2) 実験の基本操作など理解する。 3) 卒業後の活躍分野をみる。		◎		○					○	○
17UHBS1259	早期体験学習Ⅱ	1	健康生命薬科学科学生として学習に対するモチベーションを高めるために、薬学の基礎実習を体験する。	2) 年次以降に受ける実習に対してすみやかに理解、実行できる能力と協調性をつける。		◎		○	○	○	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性								
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3											
17UHBS2260	基礎有機化学実験	2	化学実験の基本操作を修得する。また、化学実験を通して化学物質に触れ、化学的性質を知り、正しい取扱い方法を学ぶ。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 実験操作書に従って正しく実験装置を組み立て、自ら化学物質の変換反応を実施し、正しく生成物を取扱い、得られた結果をまとめて考察できるようにする。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		◎		◎									
17UHBS2261	応用有機化学実験	2	医薬品を含む目的化合物への化学変換を自分自身の手で実施するために、これまでに習った有機化学の理論・法則・反応などを理解し、有機合成反応の基本的知識、技能、態度を習得する。	有機化合物の代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識を整理し、それらを実施するための基本的技能を修得する。						◎	◎	◎	○						
17UHBS2262	生化学実験Ⅰ	2	生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、実験を通して生体を構成する分子や身体をまもる免疫反応の基本事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 生体構成分子であるアミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸の定性または定量試験を実施できる。 2) 酵素反応速度を測定し、解析できる。 3) 抗原抗体反応を利用した検査方法を実施できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎			◎	◎	◎	○							
17UHBS2263	生化学実験Ⅱ	2	生命科学の基本である遺伝子解析技術を修得し、遺伝情報をデータベースを活用して解析して、まとめた情報を発表形式で報告できることを、本実験の目的とする。	1) 主要な遺伝子解析技術であるPCRと塩基配列解析を行うことができる。 2) 得られた配列に関する情報を公共データベースを使って探索できる。 3) 配列情報や遺伝子の機能情報をまとめて発表できる。 4) ヒトの遺伝子を扱う上で重要となる技術的・法律的事項を、遺伝子検査実験を通して習得する。						○	◎	◎	○	○					
17UHBS2264	物理化学実験	2	実験を通して化学物質の物理化学的性質に関する理解を深め、物理化学的性質を解析するための技能を習得することを目的とする。	1) 薬学および生命科学に關係する化学物質の物理化学的性質を測定できる。 2) 薬学および生命科学に關係する化学物質の物理化学的性質の測定データを解析し、論理的に考察できる。		◎			◎	◎	◎	○							
17UHBS3265	分析化学実験	3	医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、分析器具の取扱い方法、化学物質の定性分析法、定量分析法および分離分析法の技能を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 陽イオンおよび陰イオンの定性分析を実施できる。 2) 代表的な医薬品の容量分析を実施できる。 3) 溶液のpHを測定できるとともに、緩衝液を調製できる。 4) 代表的な医薬品のクロマトグラフィーによる定性・定量ができる。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎			○		○							
17UHBS3266	天然物化学実験	3	日本薬局方に収載される代表的な生薬を鑑別し、生薬試験法の原理および操作法を理解する。また天然物質の抽出、分離精製法を実施し、天然物の取扱法を修得する。	1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。 2) 代表的な生薬を鑑別できる。 3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。 4) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を実施できる。							◎	◎	◎	○					
17UHBS3267	解剖生理学実験	3	生体の構造と機能を統合的に理解することを目的とする。また、生命に対する倫理的な姿勢を養う。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	1) 生体を構成する器官の立体的位置関係を把握し、その構造と組織・細胞を関連づけて説明できる。 2) 器官の生理的機能について、生体における役割と調節機構を体系的に説明できる。 3) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○	○			◎	◎	◎	○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3						
17UHBS3268	予 防 薬 学 実 験	3	生活に密着した環境衛生・公衆衛生関連分野で活躍するためには、講義で学んだ知識が、頭の中だけ、机の上だけに放置されてはいけない。講義で学んだことを実際に実験で確かめ、知識を確固としたものにするを目的とする。	微生物の取り扱い方法、核酸の取り扱い方法、中毒原因物質の分析法、水の分析法、室内環境の分析法、食品の変質試験法、食品添加物の分析法などの基本的技能を身に付けている。				◎	◎	◎	○			
17UHBS3269	薬 理 学 実 験	3	薬理学の講義で学習した薬物に関する知識を、動物実験を通して実際に確かめることを目的とする。	薬物の薬理作用、副作用およびそれらの作用機序を修得することにより、薬物を総合的に理解できることを最終目標とする。	○	○		◎	◎	◎	○			
17UHBS3270	薬剤学・製剤学実験	3	製剤化の方法と意義、ならびに薬物動態の理論的解析に関する基礎的技能を修得する。	製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計に関する基本的事項を修得するとともに、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能をも修得する。		◎		◎	◎	◎	○			
17UHBS3271	健康生命薬科学実験	3	ライフサイエンスの目覚ましい進展を理解する上で、これらを支えてきた先端機器の存在は欠くことができない。本実習では主要な先端機器を活用した実験を行い、機器の原理、使用法、特徴、限界を理解する。また、最新の研究の中でこうした機器がどのように活用されているかを、実験を通して学ぶことを目的とする。	先端機器を活用した実験を通して、機器の原理、使用法、特徴、限界について説明できる。また、このような先端機器を用いた実験課題について理解し、実験結果をスライドにまとめて発表し、質疑に答えることができる。	○	○		◎	◎	◎	○			
17UHBS2272	基礎薬学英語演習	2	本演習は、薬剤師・研究者としてグローバルに活躍するための国際感覚を養成することを目的とし、英語力のレベルアップをはかることを目標とする。	1) 聞く、話す、読む、書く、という技能を磨き、英語で自らの考えや感じたことを発信できる。 2) アメリカ文化を理解する。 3) アメリカの薬剤師・研究者の活躍分野を見て、海外における薬剤師や研究者の現状を理解する。				◎		◎				
17UHBS3273	早 期 卒 業 研 究	3	4年次の卒業研究をより効果的に学ぶために、早期に研究室に所属し、与えられた課題に取り組んで、研究に必要な基礎的な知識・技能を修得する。	与えられた実験課題を正確に把握し、的確な実験を行う為に必要な知識と技能を修得することを目標とする。	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	
17UHBS4274	卒 業 研 究	4	大学の重要な使命のひとつである研究活動の基本を理解するために、研究室に所属して与えられた研究課題に取り組み、研究の方法論、研究に必要な実験技術、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。	与えられた研究課題を正確に把握し、的確な実験とデータ解析を行う能力を養うこと、さらに発表と質疑応答の能力を修得することを目標とする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
17UHBS3302	健 康 科 学 II	3	健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために3学科がそれぞれの専門分野の特性を提供し、3学科の学生が共同で健康科学に取り組み、知識を深めることを目的とする。	3学科の学生が共同で一つの課題を演習方式で研究を深め、健康への取り組みの多様性と他分野との連携の重要性に気付くことを目標にする。	○	○	○		◎		○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3					
17UHBS1401	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、および支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	①日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 ②ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身に付ける。 ④将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。				◎					○
17UHBS1402	生命科学与倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身に付けることを目的とする。	①科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 ②哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ③発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身に付ける。	○	○			○				
17UHBS1403	地域活性化システム論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目標とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	①医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 ②自分の住んでいる地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 ③総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。		○							○
17UHBS3404	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身に付ける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。		○		○					○
17UHBS1405	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を实践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身に付ける。				◎		○	○		